

令和元年度学校評価結果

兵庫県立津名高等学校

段階(4:よくできた、3:できた、2:あまりできなかった、1:できなかった) ※学校全体できているかを評価(教員32名実施)													学校評議員の意見
領域	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	今年度平均	昨年度平均	増減	今年度回答				令和元年度の振り返り(成果・課題)・令和2年度に向けての改善策	
								4	3	2	1		
学校運営	学校運営全般	校務分掌における取組み	1	各分掌の重点目標を設定し、取組みについて評価・見直しを行う。	3.28	3.30	-0.02	11	19	2	0	・各係からの生徒への連絡や行事の準備に取り組む際、事前に学年会で情報を共有し確認して行うことができた。 ・個に応じた適切な対応ができた。	・三者面談、四者面談等が充実している。 ・家庭連絡や情報発信について、保護者がチェックできているか点検できるような工夫がいる。 ・地域貢献は充実している。
	開かれた学校づくり	家庭地域との連携・情報発信	2	懇談会・面談・学年通信等の発行を行うなど、家庭との連絡を密にする。ホームページを充実させ、地域への情報発信を行う。	3.63	3.52	0.11	20	12	0	0	・家庭への連絡を丁寧に言い、必要に応じて保護者と面談を実施することで生徒の状況等を情報共有した。 ・欠席生徒への連絡、各種面談、懇談をこまめに行い、保護者との信頼関係を築けている。 ・HPの更新が遅くなり、情報発信が十分でなかったので、HPの刷新を行い、発信しやすい形に改めた。 ・家庭でも学習習慣を見につけさせる、勉学に取り組ませるための工夫が必要である。	
		地域貢献	3	観藤会、ふれあいコンサート、音楽における中高連携、ボランティア活動等の活動において地域に親しまれる学校づくりを行う。	3.78	3.82	-0.04	25	7	0	0	・観藤会やたそがれコンサートなど地域に開かれた行事が多いが、運営にも生徒が参加するようにできればよい。 ・例年どおりの活動に加え、募金活動など積極的に行った。 ・観藤会において、地域の方々、島内他校生との交流を図ることができた。地域の方々の参加人数が減少気味なのが残念である。令和2年度には地域への広報を考えたい。	
	生徒指導	生徒の自主活動領域の拡大を図る取組	4	生徒会や委員会の自主的な活動・取り組みを発展させ自立の意識を高める。	3.13	3.12	0.00	7	22	3	0	・生徒が主体的に活動していける取組をする必要がある。 ・生徒会企画委員、防災ジュニアリーダー等に積極的に立候補する生徒がいる一方で、自主的に取り組む姿勢に欠ける生徒も多い。 ・HR活動等の場面で、生徒達が意見を出し合い、協力して自主的に取り組むことを大切にして指導した。	・生徒の自主性を育むため、生徒が自らの活動を文章化し、PDCAのサイクルで目標達成を目指すといよ。 ・校則で、生徒の自由意欲を束縛していないか。 ・個人面談の機会を適宜設定して、気になる生徒に接することが大切である。
		校則を遵守し、マナーを向上させる取組	5	生徒の校則に対する意識を向上させ、自律的に守れるようにする。保護者と共通理解を深め、協力を得る。社会のルールや交通マナーを守り、健康・安全に生活を送れるように努める。	3.28	3.30	-0.02	10	21	1	0	・ほとんどの生徒が校則を守り学校生活を送っているが、スマートフォン利用に関しては、ルールが守れていない生徒が多い。 ・マナーや制服を正しく着用すること、時間を守ることなど学校生活の中で大切にしなければならないことを意識して行うことができるよう指導を続けている。 ・校則違反、頭髮服装違反をする者はほとんどいない。ただ、男子の頭髮については、規定があいまいで、新しい髪型には対応しにくいのが現状である。生徒自身も保護者も戸惑いがあるように見受けられる。 ・PTAと協力し、学期ごとに交通指導を行ってきた。集会でも校則の遵守だけでなく、社会の一員としてのマナー・モラルを守る意識づけを行ってきた。引き続き、社会的な課題となっているSNSに関する指導など、たゆまぬ指導を行っていく。	
		生徒理解を深め教育活動に生かす取組	6	カウンセリングマインドをもって生徒と接し、面談機会を十分に設定し、内面的な理解をはかる。	3.50	3.30	0.20	17	14	1	0	・配慮やケアの必要な生徒が増えてきているが、学年ともうまく連携し対応することができた。情報交換や職員研修の機会を増やすことができればよいが、人手や時間が不足しているように思う。	
	進路指導	進路指導体制の充実	7	進路指導部と各学年が連携をとり、組織的に進路指導を進める。	3.66	3.58	0.08	21	11	0	0	・はば広い学力層、多様な進路に対応した指導をさらに深める。 ・個々の生徒の目標を明確にして、サポートする体制を深める。 ・三者面談を通じ、本人・保護者の希望に沿った形で類型・選択科目を決めることができた。 ・オープンキャンパス・インターシップへの参加を通して実際に体験する機会を得た。キャリアガイダンスを通じて様々な職業について考え、より具体的に進路実現に向けて少しずつ準備を始めている。 ・進路指導部と学年の連携がしっかりとれていた。多角的に生徒の進路実現の支援ができた。	・進路実現のために、個別の指導を継続して欲しい。 ・学習方法が体得できる指導・取組も必要である。
		進路意識の向上	8	進路学習・ガイダンスを推進し、進路意識を向上させる。	3.44	3.45	-0.02	14	18	0	0	・LHRなどで効果的な進路学習を進める。	
	教職員の資質向上	計画性をもった研修の実施	9	教職員が研究授業や研修を行い、授業改善、学校の諸課題についての解決能力など実践的指導力の向上に努める。	2.91	3.21	-0.31	3	23	6	0	・新入試では、新たな観点から問題が問われる状況があるので、必要とされる力をつけるためにはどのような授業展開、指導が必要かを研究し、実践していく必要がある。 ・新しい教育機器を用いた授業やアクティブラーニングなど、それぞれが研修に努めている。 ・研究授業の回数が減っているので、気軽に授業を見学し合いながら意見交換ができる環境づくりを進めていく。	・他校の研究授業に参加し、取組を参考にすることも必要である。
	教育課程	自ら学び考える力を育成する取組	読書啓発	10	「朝の読書運動」を通じて、生徒の心豊かな人間性、思考力、想像力、言語力などの育成をはかる。	3.56	3.42	0.14	19	12	1	0	・「朝読」「読書講座」において、読書に関する興味や意欲を喚起する取組を実施することができた。また図書委員が「企画展示」「ビブリオバトル大会」等の企画において、積極的に自分の役割を果たし、一生懸命取り組むことができた。 ・朝の読書が早くから定着し、本に触れる良い機会となっている。
総合的な学習の時間			11	総合的な学習の時間を通じて、自ら学び考える力や、探究活動に主体的に取り組む態度を育てる。	3.50	3.33	0.17	17	14	1	0	・Reborn Project等の探究活動を通して、地域社会の問題や理科的な分野に注目し、グループ形式で意見をまとめ発表する機会を得た。 ・個人の興味・関心に応じて主体的に取り組んでいた。 ・2年生のReborn Projectは3年目を迎え、年間計画の進行も安定してきた。	・論理的思考を促す取組を実践して欲しい。 ・Reborn Projectの発表会を工夫して、内容を深化させて欲しい。
体験的・問題解決学習			12	各教科において体験的・問題解決的な学習を展開する。	3.00	3.15	-0.15	4	24	4	0	・Reborn Projectにおいて、自ら問題解決に取り組んだ。 ・グループワークの導入など、講義形式以外の授業も広がりつつある。	・グループワークの進め方・まとめ方をその場で直接的に指導する必要がある。
適切なカリキュラムの作成			13	生徒の興味関心と進路に対応した適切なカリキュラムを作成する。	2.97	3.06	-0.09	3	25	4	0	・学期毎に、取り組んだ内容を記入し振り返ることで、次年度で必要とされる場合に、具体的に提示できるようにワークシートに書き込んだ。 ・個に応じたきめ細かなカリキュラム編成ができた。さらに新学習指導要領に円滑に移行できるように適切なカリキュラムを検討していく。 ・学年・教科ごとに関心・意欲を高める取組を行っている。今後も継続が望まれる。	・個に応じたカリキュラムの充実に期待する。
基礎・基本の定着		授業計画の作成	14	年度当初に各教科で基礎・基本の定着を図る授業計画の作成と取り組みを行う。	2.97	2.94	0.03	4	23	5	0	・授業内容を精選し、より効率的な授業展開をめざす。 ・今後も継続して、授業計画の中身を改善していく。	・習熟度別学習を徹底し、遅れている生徒をなくすことが大事である。 ・家庭学習は不可欠である。習慣化するように生活面の指導も必要である。本人任せだけにしてもいけない。 ・生徒自らが評価できる取組(例えば学習時間の記録など)がいる。
		指導形態の工夫	15	習熟度別授業、少人数授業を充実させ、個に応じた学習指導を行う。	3.13	3.24	-0.12	8	20	4	0	・生徒の能力に応じたきめ細かな授業をめざす。1年生後半は、類型選択と連動した少人数指導をめざす。 ・授業改善と合わせて習熟度別学習・少人数指導を今後も進めていく。	
		家庭学習の習慣付け	16	自発的に課題・予習・復習など家庭学習を行う習慣を付ける指導をする。	2.75	2.79	-0.04	2	21	8	1	・自発的に取り組むべき予習・復習が十分とは言えない。集中学習期間において、自ら計画し、時間をかけて学習に取り組む体験は、よい刺激となった。 ・課題提出を求められれば取り組むことができるが、十分にに取り組むことができていない者もいる。主体的に学習に取り組めるようさらに高めていく必要がある。 ・3年生になると、必要に迫られて、どの生徒も自分に必要な学習に取り組むようになるが、それまでの蓄積が少ないため効果が出にくい者も多い。 ・意欲・関心を高めながら、基礎学力の定着をめざし指導していく。 ・文章をしっかり読み取るようにできることが必要である。 ・勉強するとはどういうことなのかといった根本的なことも教えていく必要がある。 ・家庭学習については、小学校・中学校でも問題になっている。小学校からの積み重ねの部分もあるので、小中高で連携し、目標をもって頑張れるような取組も必要である。	
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	17	生徒・職員の防災訓練、救急救命講習を行い実践的な安全教育を実施する。学校の実情に応じた「警備及び防災マニュアル」を作成し、定期的に対応訓練を行う。	3.34	3.42	-0.08	11	21	0	0	・防災訓練では小学校との連携を模索し実施したが、内容をさらに充実させていきたい。淡路市との申し合わせもよく確認し、地域と連携した訓練を考えていきたい。	・よくできている。
	人権教育の推進	人権教育推進体制への取組み	18	ホームルーム活動、教科指導、学校行事等を通して、あらゆる方面で人権教育・道徳教育を推進する。	3.03	3.15	-0.12	3	27	2	0	・生徒の実態を踏まえながら、正しい人権意識、人権感覚を持たせ、自他の人権を尊重する人間性豊かな生徒を育成する取り組みができた。	・自尊心を高め、学校生活の質を向上させて欲しい。
	設備・機器の利用	図書館・情報機器の活用	19	図書館を利用した調べ学習、コンピュータ、AV機器を利用した視聴覚教育等、指導方法の工夫・改善につとめる。	3.16	3.18	-0.03	5	27	0	0	・館内のPCにプリンターが接続され、授業や進路等に生徒が利用できるようになった。 ・館内の図書資料管理システム(CASA)が古く、バージョンアップができないため、蔵書管理が不安定である。ぜひとも新規システム(図書丸)の導入を考えていく必要がある。 ・HR教室に常設されたプロジェクターが多くの授業で活用された。デジタルコンテンツについては、さらなる充実が必要である。	・図書館の充実ぶりは評価できる。
	学校特色化	高大連携・外部講師の活用	20	大学や研究機関との連携を深め、教科や進路についての理解を深めるとともに、学力向上をめざした取り組みを行う。	3.38	3.58	-0.20	13	18	1	0	・Reborn Projectにおいて、大学や関係機関と連携し授業を行った。今年は、日本金融公庫の出前授業も実施した。今後も連携を深め適宜、外部機関・外部人材を有効に活用していく。	・外部講師など社会資源の活用を進めて欲しい。
全体					3.27	3.28	-0.01						